

「神戸版レッドリスト及びブラックリスト」改訂案に係るご意見の概要と神戸市の考え方

○実施期間:令和 8 年 1 月 9 日～令和 8 年 2 月 10 日

○意見件数:5 通(12 件)

※ご意見の内容は、趣旨を損なわない程度に要約しています。

意見と回答案について

No.	項目	意見内容	(回答案)市の考え方
1	哺乳類	レッドリストにアカウミガメがリストアップされていますが、海の生物も扱うのであれば、スナメリも加えてはどうかと思えます。兵庫県西部には分布しているため、アカウミガメよりも重要度が高いのではないかと思います。周辺地域では岡山県のレッドリスト等にも掲載されています。	<p>本市のレッドリストにおける選定対象につきまして、原則として「陸域および海浜(干潟・砂浜)」を生息・繁殖基盤とする種を対象としております。</p> <p>スナメリなどの海棲哺乳類については、本市の海域を回遊する貴重な種であることは認識しておりますが、生活史が海域で完結することから、現時点では本リストの選定対象外としております。</p> <p>一方、アカウミガメにつきましては、海棲生物ではありますが、産卵時は砂浜を利用し、本市においても過去に繁殖場所として利用していた記録があることから、保全の観点に基づき選定しております。</p> <p>今後、調査の進展や評価基準の見直し等に合わせ、海棲哺乳類の扱いについても継続して検討してまいります。</p>
2	鳥類	全国的にスズメやツバメが減少していると思えますが、特にツバメ、コシアカツバメは人から餌をもらうこともできないため、餌場となる草原環境などの減少に伴い、個体数も減少しているのではないかと思います。コシアカツバメは各地でレッドリストに掲載されていますが、再度検討してみてもいいかでしょうか？	<p>スズメ、ツバメについては、減少傾向にあることは認識しておりますが、神戸版レッドリスト 2020 作成時から、カテゴリーを付与するほど生息状況や生息数が変化しているとの具体的な情報が得られていないことから、原案どおりカテゴリーを付与しないことが妥当と考えております。ただし、要調査種の前段階であると認識しているため、今後の動向を注視し、引き続き情報収集に取り組んでまいります。</p>

3	<p>爬虫類</p> <p>ニホンスッポンについて</p> <p>レッドリスト 2020 ではニホンスッポンは C であつたものが、今回、要調査と変更になっている(実質ランク下げされている)ことの根拠は何なのか疑問に思いました。</p> <p>ニホンスッポンは、生息の実態が不明である側面もありますが、混在して生息するチュウゴクスッポンと分けて示されたことで、むしろニホンスッポンという保全の対象が明確になったと思います。</p> <p>ニホンスッポンは、神戸市を含む日本列島に分布する在来種ですが、チュウゴクスッポンは大陸から持ち込まれた外来種です。両種は外部形態からの判別が困難であることから、生息実態の把握が困難です。しかし、三重県下では網羅的に調査が実施され、チュウゴクスッポンとの交雑が、広範囲な水域で生じていることが明らかとなったことを踏まえると、神戸市内においても、同様の事態が起きていることが推測され、ニホンスッポンが C から要調査に変更となる根拠は現状ないように思いました。</p>	<p>在来種であるニホンスッポンと外来種チュウゴクスッポンの交雑は、生物多様性保全上の重大な課題であると認識しております。</p> <p>今回、評価を「C ランク」から「要調査」に変更した経緯は、ランクを下げる意図ではなく、本市における生息実態の正確な把握を優先させたものです。現在、市内においてスッポン属の個体数増加の傾向が見られますが、ご指摘にもあるとおり、外部形態のみでの種および交雑個体の判別が極めて困難とされています。</p> <p>いただいた文献等の知見も踏まえ、実態の把握および科学的根拠に基づいた保全のあり方を引き続き検討してまいります。</p>
4	<p>爬虫類</p> <p>アカウミガメについて</p> <p>アカウミガメはレッドリスト 2020 では A だったが、今回、要調査と変更になっている(実質ランク下げされている)ことの根拠は何なのか疑問に思いました。</p> <p>アカウミガメに関しては、神戸市内においては、砂浜も少なく、産卵地としての重要性は低いかもしれませんが、大阪湾はアカウミガメにとっては重要な餌場であるとされていることを踏まえると、要調査とランクされる根拠がないように思いました。</p>	<p>神戸市内におけるアカウミガメの直近の記録は、須磨海岸での確認(1985 年)や舞子海岸でのストランディング(2024 年)に限られており、本市沿岸域の利用実態について具体的な情報は把握されておりません。</p> <p>そのため、形式的なランク付けを維持するのではなく、まずは「要調査」として位置づけ、海域利用の実態に関する情報収集を進めるべきと判断いたしました。いただいた海域の重要性に関する視点も踏まえ、今後の評価のあり方を検討してまいります。</p>

5	爬虫類	<p>ブラックリスト、特にクサガメについて</p> <p>ブラックリストは、外国由来のみを対象にされておられるようですが、外国由来であるかに問わず、侵略性等によりブラックリストに掲載し、その侵略性や問題について一般に知ってもらうことが必要に思いました。例えば、日本列島に生息するクサガメに関しては、中国大陸や朝鮮半島を起源にもつ外来種であるとの研究報告が複数報告されていますが、対馬集団のクサガメは在来と指摘され、外国由来の外来種ではありませんが、Aランクのニホンイシガメへの侵略性は複数の研究により報告されています。長らく在来種として扱われていたクサガメにおいては、まずはブラックリストに掲載し、外来種であることや、ニホンイシガメへの侵略性について普及啓発し、ニホンイシガメの保全対策をすすめていくことを望みます。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本州に分布するクサガメは、近年の研究により大陸由来の外来種である可能性が高いと考えられています。また、在来種であるニホンイシガメへの影響については、ご指摘の通り交雑による遺伝子攪乱が大きな課題となっております。</p> <p>一方で、クサガメを外来種と断定するには更なる研究が必要であり、判断は慎重にすべきであるとの指摘もあり、また、長年在来種として扱われてきた経緯から、社会的な認知が十分でない背景もございます。そのため、クサガメについてはこのような現状や課題があること、また、適切な飼育の継続と野外放逐の防止が必要であることなど、本市の外来生物種リストの備考欄等に掲載し、市ホームページ等でも周知を図ってまいります。</p>
6	両生類	<p>アカハライモリ</p> <p>Cより、BかAランクにすべきだと思います。私は六甲山系では山頂より西側しか知りませんが、以下に示した調査を行った経験上、イモリはモリアオガエルやヒメタゴガエルより、生息地の数は少なかったです。捕食者である可能性が高いウシガエルやアメリカザリガニが生息している池等が多く見られました。</p>	<p>アカハライモリについては、前回の神戸版レッドリスト改訂時(2020年度)にCランクから、Bランクと改訂しました。今回の改訂においては、専門家の意見をもとに、減少傾向にはあるが、場所によっては確認されていることから、現行どおり、Bランクとすることが妥当と判断いたしました。今後も、引き続き情報収集に取り組んでまいります。</p>

7	魚類	<p>ナガレホトケドジョウは A ランクにしてほしい。理由は以下のとおり。</p> <p>市内では本種が主に生息する準用河川とそれが流れ込む一級河川や二級河川との接続点や準用河川内に、垂直の落差工など多くのコンクリート構造物が設置されている。そのため、生息地の分断化あるいは断片化が進み、個体群の遺伝子交流が妨げられ、近交劣化が進む。寿命が長いのですぐにはわかりにくいですが、長期的には絶滅の可能性が高くなる。マイクロサテライト DNA の分析調査では、多くの生息地で遺伝的多様性が比較的低い。さらに、かつては生息が見られた丹生神社参道に沿う流れや谷山川では、現在は生息が確認できず、既に絶滅したと思われる。特に湧水などで絶滅した生息地は元に戻らない。</p>	<p>本種はもともと源流域の溪流という、湧水や土砂災害の影響を受けやすい環境に生息していることから、遺伝的多様性が低く、実際に神戸市内で見られなくなった可能性が高い箇所もあります。</p> <p>しかし、ナガレホトケドジョウは、神戸版レッドリスト 2020 作成時から、生息地が著しく減少したのかは不明であり、遺伝的多様性の危機についても、神戸版レッドリスト 2020 作成時から、遺伝的多様性がさらに減少しているのか、確実な情報がありません。</p> <p>生息地における人為的な環境改変や、広範囲の湧水時にはなんらかの保全策が必要な種であることは認識していますが、Aランクとして緊急の保全対象とすべきかどうかは、さらに詳しい生息情報の蓄積が必要と考え、原案どおりのカテゴリーに設定することが妥当と考えております。今後の動向を注視し、引き続き情報収集に取り組んでまいります。</p>
8	貝類	<p>「チャコウラナメクジの近似種」が兵庫県ブラックリストに掲載されていたと思いますが、これについてはいかがでしょうか？</p> <p>外来種の多くは市街地から侵入しやすいと思われるので、注意が必要だと思います。</p>	<p>本市のブラックリストの選定にあたっては、市内での分布状況や生態系への具体的な被害実態を基に判断しております。本種につきましては、生態系への大きな影響が現時点において確認されていないことや、市域における詳細な分布域などの具体的な影響に関する知見が十分ではないことから、選定を見送っております。</p> <p>もし市内での生息状況や被害に関する情報をお持ちでしたら、ぜひ神戸市までお寄せください。</p>
9	植物	<p>神戸市RD改定案を拝見いたしました。シダ植物は苦手なので種子植物しか見ていませんが、気が付いた点はランク変更されている種がヤマトウミヒルモ、アマモ、ヤマトホシクサ、ウキミガヤツリ、セリバオウレン、ホザキノミミカキグサの6種類しかないのですが、小生の感覚として過去5年間で自生地から消滅したレッドデータ種が増加していると感じています。</p>	<p>種子植物のランク変更については、専門家の意見をもとに、前回の神戸版レッドリスト改訂時(2020年度)から、カテゴリーを変更するほど生育状況や生育数が変化しているとの具体的な情報が得られていないことから、その他の種のランクは変更なしとしております。</p>

10	その他	<p>今回の改訂には間に合いませんが、植物に詳しい人材を集めて、A, Bランクだけでも現状の生育状態の情報交換をする場を神戸市環境局様の方で取っていただければ、ありがたいのですが。</p> <p>今後5年間でレッドデータのホットスポットである棚田の荒廃が加速度的進むことを危惧しております。</p> <p>自生地の保全は難しいと思いますので、種が消える前に安全な場所への移植による系統保存だけでも実施する必要があると考えています。</p>	<p>希少種保全のために、頂きましたご意見も参考にしながら、今後検討を進めてまいります。</p>
11	その他	<p>ブラックリストに国外由来のコウガイビルを加えてはどうか？離島などでは陸産貝類が外来コウガイビルの餌となり、陸産貝類の個体数が激減し、かなり問題になっています。人目につきにくいため、潜在的に増加していることも考えられます。</p>	<p>本市の「動植物リスト」における選定対象生物群につきましては、現在、専門家による調査・確認が可能な範囲として、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類(淡水・汽水産)、昆虫類、甲殻類、シダ植物、種子植物を基本として構成しております。</p> <p>ご指摘のコウガイビル類(扁形動物門)につきましては、現時点では本リストの選定対象生物群に含まれていないため、掲載を見送っております。なお、セアカゴケグモのように、外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定され、人身被害の恐れや駆除等の緊急性が極めて高い種につきましては、対象群の枠組みを超えて例外的に掲載する運用を行っております。</p> <p>コウガイビル類による在来種への影響については、今後の知見の集積とともに、評価対象群の拡大を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
12	その他	<p>ブラックリストという名前について</p> <p>ブラックリストという呼び名は、品がないように感じるし、外来種=悪という意識を生み出す感じがするので、呼び名の見直しを望みます。</p>	<p>ブラックリストという表現について、IUCN(国際自然保護連合)の表現を勘案し、侵略的外来種リスト等の表現を検討してまいります。</p>